

50周年記念式典 式辞

先ほどは、永年勤続の講師5名に感謝状を、30期以上在籍の老大学生2名、20期以上52名の各代表に、表彰状を授与させていただきました。講師の先生方には、長年に亘る懇切丁寧なご指導に心から感謝申し上げます。そして、老大学生のみなさんの生涯学習への高い意欲に敬意を表します。また、老大の環境を整えるために、日々ボランティアとして活動して頂いている方にも表彰状を授与させて頂きました。本当にありがとうございます。

本日は、枝廣福山市長のご出席、来賓として、熊谷市議会議長、古谷市老連会長・各副会長、池口元老大学長、高橋元学長、浦上霞学区連合町内会長、平田霞交流館長のご臨席、講師の先生方、多くの学生の皆様のご出席を得て、福山市老人大学創立50周年記念式典が挙行できますこと、大変有難く・嬉しく存じます。

今を遡ること50年、第1次オイルショックで店頭からトイレットペーパーが消えると言われた1973年（昭和48年）6月6日、市社会福祉会館において、福山市老人大学の開校式及び、第1期入学式が挙行されました。当時の立石定夫市長は「若々しい勉学の心と、健やかな人生態度が共鳴する老人大学を」とメッセージを送られました。

開校時、教養、書道、園芸、手芸の4教科に、351名の学生が入学してきました。翌年の10月、元市立高等学校の校舎（現在地）に移転し、独立校舎を持つことになりました。創立5周年の年に校章・校旗・校歌を制定し、大学としての体制を整え、創立10周年には、教科数10、学生数も1897人と飛躍的に拡大・充実していきました。この頃には、福山市老人大学は生涯学習の先進的な事例として、テレビ等で紹介されるとともに、文部省を始め全国各地から視察に訪れられ、1996年（平成8年）には、秋篠宮殿下・同妃殿下がお越しになりました。

その後も、パソコン・古典文学・英会話・カラオケ・スマホ・絵手紙・イキイキ体操など、社会

的ニーズや学生の要望を踏まえた教科を導入し、創立40周年頃には教科数は30を超え、学生数は2600人台となっていました。

この間、市当局には全教室への冷暖房を始めとする大幅な施設改修、エレベーターの設置、学校周りのネットフェンスへの改修など、学生が安全で快適に学習できるよう、年次を追って整えて頂きました。こうして福山市老人大学は、名実ともに押しも押されぬ高齢者の生涯学習施設となりました。

そんな折、2020年（令和2年）に入り、パンデミックとなった新型コロナウイルス感染症により、老大においても休講や臨時休講、さらに「密」を防ぐための大幅な定員減など、2600人を超えていた学生数は、一気に1600人程になりました。

「健康と安全が1番」を合言葉に掲げる老大では、学生・講師・職員の全員が心を一つにして検温、手洗い、マスク、消毒など基本的なことをはじめ、徹底した感染防止対策を取って学習を進めてきました。皆さんは窮屈な思いをされたことと思いますが、結果、学内での感染拡大はなく、この3年間を無事乗り越えることができました。このことは何よりの喜びであり、皆さん方の「私たちの老大を大切にしたい」という強い思いを感じ、心から感謝しています。

今年度の老大は32教科、73クラスに学生総数1638人、最高齢者は96歳、新規学生は217人となっています。

「あなたにとって老人大学はどんなところですか？」答えはそれぞれだと思います。しかし、はっきりしていることは、みなさんが週に1度でも老大に通うことは生活にリズムをもたらすこと、さらに講師の先生の指導を受けながら学習を深めることや、友達とお喋りしたり一緒に活動したりすることは日々の生活に潤いをもたらす、やりがいや生きがいに繋がっているということです。毎年、教育実習で訪れる市医師会看護専門学校生は、実習後、口をそろえて「老大の学生さんは、本当にみなさんお元気です」と印象を述べます。

このことは、みなさん自身の喜びであり、ご家族の喜びであり、そして社会の喜びでもありま

す。キャッチコピーは「健康長寿に貢献する老人大学」。「松田妙子賞」を頂いた老人大学は、これからも大学を「我が学び舎」として大切にしてくださる皆さんとともに、その役割を果たしていきたいと思います。

本日お集りの皆さんと、2年半後、真新しい施設で、これまで培ってきた伝統を大切にしながらも、まちづくり拠点施設の特色を生かした新たなスタイルも取り入れて、老人大学が一層発展することを祈念申し上げ式辞といたします。

2023年（令和5年）9月27日

福山市老人大学 学長 飛田洋悟